

# 2020年9月1日～2024年8月31日の間に 当科において関節鏡下内側半月板縫合術の治療を受けられた方及び そのご家族の方へ

—「内側半月板後根断裂に対する pullout 修復術後の臨床成績評価」へご協力のお願—

研究機関名 岡山大学病院  
研究機関長 金澤 右

研究責任者 岡山大学病院 整形外科 講師 古松毅之  
研究分担者 岡山大学病院 整形外科 医員 平中孝明

## 1. 研究の概要

### 1) 研究の背景および目的

内側半月板後根断裂は半月板の機能を著しく失い、放置すると急速に膝の軟骨損傷が進行することが知られています。そのため内側半月板後根断裂に対して膝関節の機能を温存するために、積極的に修復術を行う事が推奨されています。当院では比較的低侵襲で行う事が可能な関節鏡を用いた pullout 修復術を施行しておりますが、糸の種類や縫合法など最適な修復法を追求することで、より膝症状を改善し膝の機能を長持ちさせることが可能だと考えます。

本研究では①pullout 修復術がどの程度膝の症状を改善し、軟骨損傷の進行を遅らせることができるのか、また②どのような縫合法が良好な治療成績を獲得するために最適であるのかを明らかにすることを目的とします。

### 2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

内側半月板後根断裂に対する pullout 修復術により膝関節の機能を長期にわたり温存できる可能性があり、健康寿命の増進、生活の質の維持が可能になると考えられます。結果的に変形性膝関節症になることを防ぐことが出来れば、侵襲が比較強い人工膝関節置換術などの手術を受ける必要性が低くなると考えられますので、患者様の身体的負担や医療費の削減にもつながると考えられます。

## 2. 研究の方法

### 1) 研究対象者

2020年9月1日～2024年8月31日の間に岡山大学病院整形外科において内側半月板修復術の治療を受けられた方80名を研究対象とします。

### 2) 研究期間

倫理委員会承認後～2030年8月31日

### 3) 研究方法

2020年9月1日～2024年8月31日の間に当院において内側半月板修復術の治療を受けられた方で、研究者が診療情報をもとに修復術後の臨床成績に関する分析を行います。

### 4) 使用する情報

この研究に使用する情報として、カルテから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、氏名、生年

月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- ・ 患者基本情報
- ・ 術前後臨床スコア (Lysholm knee score, Tegner activity score, VAS, IKDC score, KOOS)
- ・ MRI (内側半月板の内側・後方への逸脱量)
- ・ 再鏡視時所見(再鏡視時における半月板の修復状態)

#### 7) 情報の保存、二次利用

この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後 15 年間、岡山大学病院整形外科医局図書室内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。なお、保存した情報を用いて新たな研究を行う際は、倫理委員会にて承認を得ます。

#### 8) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2029年8月31日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

#### <問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院 整形外科 古松毅之・平中孝明

電話：086-235-7273（平日：8時30分～17時00分）

ファックス：086-223-9727